

# やすらぎだより

10  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第160号

## 「20時間のドキュメント」

施設長 植田 誠



9月4日午後2時半、前触れもなくその時はやってきた。翌日の午前10時半の通電までの20時間、近隣地域を含む法人内の停電の始まりは、台風21号による風雨の強まりとともに訪れた。

数日前に数十分の停電があったせいか、予期はしていた。現に、各施設やフロアでは念のために水を溜めたり、マニュアルを印刷し手元に置いたりしながら、心づもりは抱いていた。台風等によって幾度となく経験したことから職員皆が落ち着き払ってはいるが、まさか翌朝にまで続くことになるうとは、誰しもがその様な危機感を抱いてはいなかった。

夕刻を迎える頃、館内の明るさは途絶えていった。中の静けさと反して外は烈風となり木々の揺れる音が一層高まる中、経験したことのない暗闇への対策と長期戦になるかもしれないという悲壮感が、館内あちらこちらの会話から漏れ出している。エレベーターが停止した際に行う配膳手渡しは、法人内職員誰もが恒例行事かのように参画し、4階までの階段には統制がとれた人の道ができてはいるが、非常時としての覚悟が皆の顔色に表れ張り詰めた空気が漂っていた。

限りあるランタンの灯りがうっすらと灯る頃、各施設では夜勤にあたる職員の緊張感はピークを迎えた。如何ともしがたい非常時の環境に立ち向かうその背中には、プロとしての気合いが見え隠れする。

時は確実に消化しやがて日の出を迎える頃、疲れ果てた表情の裏には一晩を無事に過ごせた安堵感で満ち溢れていた。緊急時だからこそ連携しあえた3施設、地域から得られた貴重な情報と協力、そして、非常時だからこそ大切であると教示下さったご利用者様の落ち着き払った態度。改めて知り得た大切なこれら要因。

大事に至らなかった経験を、今夜も引き継がなければならないと皆が決意した頃、又、包括スタッフが地域独居高齢者宅への安否確認に発った頃、時刻は10時半、薄暗かった館内は煌々とした灯りに満ちる。

あちらこちらから聞こえる歓声の響きが、20時間の深みを物語っていた。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業